

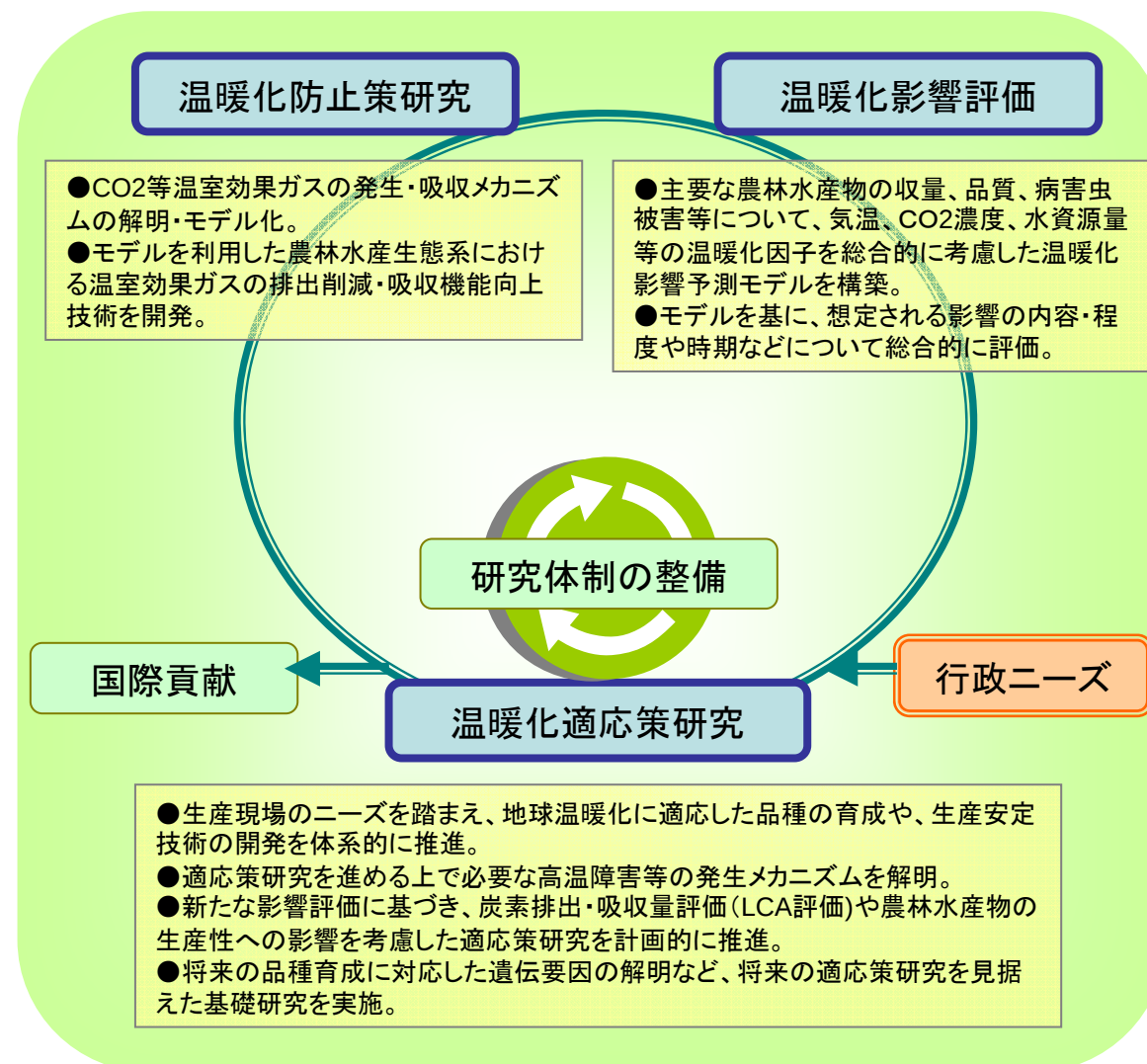
『地球温暖化対策研究』の推進について

参考資料6

農林水産技術会議事務局

基本的な方針

- ◎①農林水産業における温室効果ガスの排出削減・吸収機能向上に貢献する研究、②将来の温暖化の影響の予測・評価、③温暖化に適応する品種開発や生産安定技術の開発を計画的に実施。
- ◎研究課題について行政部局と十分に調整し、炭素排出・吸収評価(LCA評価)や農林水産物の生産性への影響を考慮した温暖化防止策・適応策技術の開発に努め、行政部局での温室効果ガス削減対策に貢献。
- ◎研究成果は、速やかに生産現場での実証・普及に移すとともに、IPCCへの情報提供や開発途上国支援などに積極的に活用。



地球温暖化対策研究の工程表(大枠の考え方)

		～2010年度程度	～2030年頃	2030年頃～
防止策研究	地球温暖化 プロジェクト研究 (2006-2010年)	●農林水産業における温暖化防止策 ・農林水産業における炭素循環モデルの構築 ・農林水産業からの温室効果ガス排出削減技術の開発	◎炭素循環モデルとそれ を利用した温暖化防止策 の高度化	
影響評価 (将来予測)	行政ニーズ & 研究ニーズ	●新たな影響予測【プロジェクト研究等に対応】 ・将来予測のための共通な気候シナリオの開発 ・水稻の収量、品質について、気候変動が水田生態系に及ぼす影響を、高温不稔、病害発生などの因子も考慮してモデル化し、将来予測 ・果樹について、高温と品質低下の関係、冬期の低温不足と休眠覚醒の関係を解明・モデル化し、将来予測	◎温暖化影響評価の 高度化	◎適応策の抜本的 な見直し検討
適応策研究	適応策レポート等	●適応策の基礎的課題【プロジェクト研究等に対応】 【独法等の研究成果を活用し集中的に取り組む課題】 ・高温障害の発生メカニズムや低温不足と休眠覚醒の関係を解明 ・降雨、出水形態の変動に伴う農業水利施設への影響メカニズムの解明	◎計画的な適応策研究の推進 (炭素排出・吸収量評価や農林水産物の生産性への影響を考慮) ・生産安定技術の開発 ・高温等のストレスに強い温暖化適応型品種の育成 ・新規病害虫への対応	・栽培技術の抜本的見直し等新たな生産安定技術の開発 ・ゲノム情報等を利用した高度に温暖化に適応する品種の開発 ・温暖化影響評価等に基づく作物転換の実施
	短期的課題	●緊急性の高い課題【競争的資金・交付金等に対応】 【独法、大学、民間等の研究者のアイデアが必要な短期的課題】 ・稲の胸割れ米発生軽減技術の開発 ・植物生育調節剤を用いたミカンの浮皮防止技術の開発 ・トマトの障害果抑制のための効率的遮光法の開発	◎作物転換評価システムの開発 ・作物転換の条件等について検討	
	中長期的課題	●品種育種等の中長期的課題【交付金等に対応】 【独法等のこれまでの基礎研究成果の活用が必要な中長期的課題】 ・水稻の高温耐性品種の開発 ・高温化でも着色の容易な果樹品種の開発		
	研究シリーズ	●温暖化影響のメカニズムと遺伝要因の解明【交付金等に対応】 ・水稻の高温障害等の遺伝要因の解明等将来の品種改良等に対応した基礎研究 ●行政側調査事業と連携して実施【交付金等に対応】 ・現状把握のため、気象条件と収量、品質などの栽培データを継続的に取得		
(基礎研究)				
(モニタリング)				

効率的な地球温暖化対策研究の推進策

- ◇関係行政部局、外部有識者、研究機関等からなる『地球温暖化対策研究推進委員会(仮)』を設置し、研究指針の策定や研究全体の適切な運営管理を実施。
- ◇研究独法等を構成員とする『農林水産地球温暖化対策研究連絡協議会(仮)』を設置し、独法研究の連絡・調整・連携を図る。
- ◇各研究課題の内容を踏まえ、①プロジェクト研究、②競争的研究資金、③独法交付金等での対応に整理。